

じんかん う  
人間に生まれて “つながりを生きよう” 284

いかに死ねるかと言うことが大事です。

今年は大雪の年でしたが、三月にはほとんど雪が消えていました。ほんの一、二週間で温かい風が吹き、ぐんぐんと消えていきました。すごい自然の力に感嘆しておりました。

三月のはじめから一週間ほどかかってこの冬に建物を護って下さった、雪囲いや、木々の雪吊りを外し、冬の間にとまった落ち葉や杉の枝葉、残念ながら折れてしまった枝、を集め南砺リサイクルセンターへ搬入しました。その後防虫・殺菌の為に石灰硫黄合剤を蒔きました。蓮の鉢の植え替えをして、二十一日には桜もちらほら開き、春の花も少しづつ咲いてきました。



三月の定例聞法会は、広瀬地区の老人会追悼会、福寿大学閉校式があります。追悼会には広瀬地区の教念寺住職、法雲寺住職とご一緒に読経をし、亡き人を偲び、お経を聴聞しました。

福寿大学は昨年はコロナ感染の警戒のために役員だけで行いましたが、今年は広く声かけをられ、四十人前後のお参りでした。久しぶりににぎやかな本堂になりました。

四月からは全国的なコロナ禍ではありますが、三密に気を配って行事を行ってまいりたいと思っております。皆様のご協力、ご参加をお願いいたします。



そこに私が本当に言いたいことは、人生は「死の解決」です、必ず来るこの死に喜びを持つことはできないのでしょうか？

大島一声さんの法話から

4月真敬寺行事予定

- 4月1日(木)～4日(日) 春の法要 中継
- 4日(日) 日曜学校 午前9時  
花祭り 入学式
- 7日(水) 正信偈の会后1時30分  
みんなで読む同朋新聞
- 17日(土) 定例聞法会  
午前9時30分 香華会法話 住職  
午後1時30分 法話 竹部俊恵 師
- 25日(日) 日曜学校 午前9時

## 定例聞法会の聞書

## 追悼会・福寿大学

大島一声 (おおしまいっせい) さん

高岡市荒屋敷



「生」と「死」ということは、私の一生のテーマです。そこで私は「生きる安心」と「死ぬる安心」と思います。

今はいかに生きるということを考えていますが、いかに生きても夢幻(うめまぼろし)であります。いかに死ぬるかと言うことが大事

です。仏教には生死即涅槃(しようじそくねはん)という言葉があります。生きて言うことと死ぬと言うことは離れないと説かれています。

本当によくよく考えてみますと私たちの生きがいと言うことは何なのでしょう？生きて甲斐(かい)があるということとはどんなことでしょうか？

甲斐「行動の結果として現れるしるし。努力した効果。

期待できるだけの値うち。旧国名の一。現在の山梨県にあたる。甲州」

人生ってというのは何なんでしょう？私は末代無智の御文に結局何もわからんということ、生まれの理由もわからず、生きることともわからず、死んで行くこともわか

らないことを無明(くらがり)と表現してあると思います。

生きるということは、同時に死ぬことであります。死ぬことを除いて、生きることもないのです。

今コロナと言われていますが、コロナで生き残っても私は明日死ぬ身です、死から逃げられないじゃないですか。

しかし、人生は素晴らしいです、コロナの中で仕事もなく、貧乏であつてもこれは頂き物なのです。

会わねばならないことに遇つていくのがすくいなのです。

どれだけコロナから逃げても、その明日には私の死が来るのです。死は眼前にいつもあります。

ここには皆、死ぬ方ばかり集まつておられます。まもなくです、残りもあつという間に終わります。

す。そこに私が本当に言いたい

ことは、人生は「死の解決」で  
す、必ず来るこの死に喜びを持  
つことはできないでしょうか？

「生きる安心」と「死ぬ安心」  
ということですが「生きる安心  
は」死が来るから無いのです。

ごまかしてはいけません、自分  
を偽ってもいけません、私は死  
ぬのです。

この死にすくいがあるの  
で。死は素晴らしいものな  
ので、死と対面するから生がある  
のです。死を超えなければ生は  
無いのです。「死んで安心」し  
ていけることが今日の「生の安  
心」でないでしょうか？

私は今、八十九歳です。私に  
とって今が一番大事です。過去  
でも未来でもないです。今がす

べてなのです。

死を考えないものはやがて必  
ずつまずきます、死が来ます、  
何にも無くなります。だからこ  
の死を解決することが今日の仏  
縁なのです。是非明るくなって  
下さい。

死を考えると心は真っ暗にな  
ります、自分の名前も姿も因縁  
も全部消えるのです。

親鸞さんは「必ず必ず、極楽  
にてお待ち申し候」と書かれて  
います、必ず必ず、皆さんと会  
いましょう。「俱会一処」とは  
また会えるということですよ。

私のくも膜下で寝込んでいる  
妻は先日から具合が悪いので  
が「いつ逝っても良いよ」

「はい、すぐ会えますから」と  
言っております。「私は世界

で幸せものです、だって南無阿  
弥陀仏に会えたのですから」と  
また会えるからと、生まれた「い  
のち」も死んでいく「いのち」  
もすべてが会える世界がある事  
を彼女は知っているのです。そ  
れこそが大精神界です。

そういう心の世界があるか  
ら、私は「心のいのちは永遠」  
と思います。



体はいつか死にます。八十年九十年ありがとうです。心は精神界に生まれていきます。目には見えない世界ではありますが、今あるのです。

感謝して満足していかなくてはなりません、感謝できることに満足していかなくてはなりません。こんなに尊い一日はないと思っております。朝、目が覚める、これが年寄の喜びなのです。

人間に生まれることは本当に生まれがたい人間に生まれたんです。何が不足ですか？まだ足りないものはありますか？

人間に生まれて死の解決が出来てない、生と死はワンセットなんです。死を決めて生まれてきているのです。

すべては永遠なんです、南無阿弥陀仏の念仏の心があれば、すべてが明るくなっていきます。

先月の行事から

七日(日) 真宗教室 午後二時

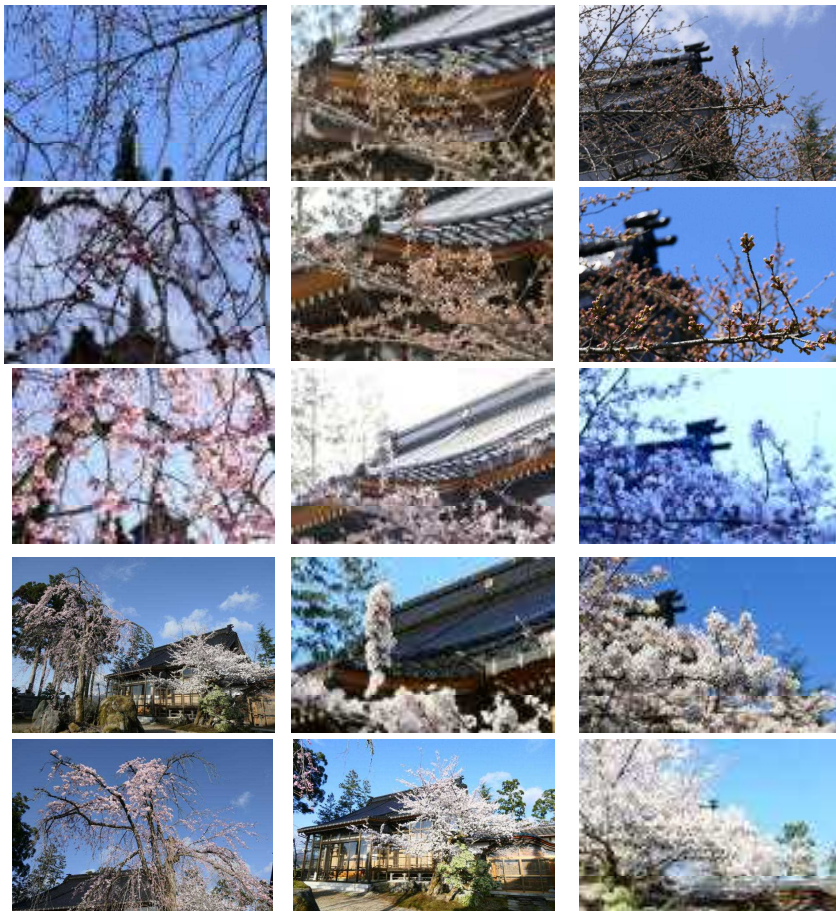
十七日(水) 定例聞法会

午後 法話 大島一声さん

二十四日(火) 正信偈の会 午後二時

二十八日(日) 日曜学校修卒業式

桜のつぼみ (三月二十四日) から開花まで



発行 〒 939-1664 富山県南砺市竹内 440



HP 真宗大谷派(東) 小塚山真敬寺 宮地修

QR コード TEL 0763-52-0196 携帯電話 090-3760-5692 メール miyaji@p2.tst.ne.jp